第 91 号　　令和 6 年 3 月 19 日

おおさわ学園 コミュニティ・スクールだより

https://www.mitaka-schools.jp/ohsawa/　　発行者：おおさわ学園 コミュニティ・スクール委員会　会長 柴田直樹

『１：２９：３００』

学園長　勝野　能光

日頃よりおおさわ学園の教育活動そして児童・生徒の安全・安心や健全育成にご理解・ご支援いただきありがとうございます。

さて、世の中にはいろいろな法則がありますが、その一つに危険な事故を予知する「ハインリッヒの法則」があります。この法則によれば、たとえば重大な事故が１件起きたとき、統計的には、それまでに軽微な事故が２９件は起きており、さらに事故になりかけた「ヒヤリ・ハット体験」が３００件はあるといいます。つまり、事故は偶然に起きるのではなく、事故には至らない程度の危険な行動の積み重ねで起きるということなのです。

誰でも「ヒヤリ・ハット体験」はあるはずです。確率的に言えば３００の「ヒヤリ・ハット体験」が集まれば、いつ事故が起きても不思議ではないことになります。その体験を、事故にならずに良かったと、すぐに忘れてしまうか、ひょっとしたら事故になったかもしれないと、前兆としてとらえ、細心の注意を払うことができるか。

そこが、近い将来事故になるか、ならないかのポイントとなります。

おおさわ学園では、「学校安全計画および学校安全年間指導計画」に基づき、安全指導（11 回）に取り組んでいます。児童・生徒一人ひとりが、事故は身近で起こり得るものだという意識をもち、「ヒヤリ・ハット体験」を防いでいくことが大切と考えています。

「令和 5 年度 CS 委員会部会・おおさぽ報告」

〔コーディネート部会〕

今年度は授業や学校、地域の行事がほぼコロナ前の状況が戻ってきて、各種検定や子どもたちが外に出て活動する機会なども増えました。保護者の皆様、地域の皆様の見守りサポートとしてのご協力により安全に行うことができ、楽しい行事になりました。来年度も子どもたちが地域で様々な活動ができるようご支援お願いいたします

〔広報部会〕

コミュニティ・スクールだより第９０号では、今年度発足しました『おおさぽ』を特集し、その仕組みやつながり、活動をまとめてお伝えすることができました。

来年度も、**コミュニティ**・スクールだよりや学園カレンダーを通して、活動をより身近なものに感じていただけるよう、お伝えしていきたいです。

〔評価部会〕

今年度も 11 月に『学園アンケート』を実施いたしました。ご協力有難うございました。アンケートの内容、回答方法等、検討して行いましたが、いかがでしたでしょうか？

回収率も含めて、まだまだ検討の余地があると感じておりますので、今後も皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

おおさぽ　サポート隊　活動実績

実施校	サポート隊延人数	学園共通	サポート隊延人数
大沢台小	490 名	検定	52 名
羽沢小	750 名		
七中	64 名		

おおさぽ　検定　活動実績

検定	対象	回数	受験者数
英語検定	七中	2 回	81 名
算数・数学検定	大沢台小・羽沢小・七中	1 回	75 名
漢字検定	七中・大沢台小・羽沢小	3 回	193 名

おおさぽ　古本リサイクル　活動実績

学校図書館寄贈	対象	冊数
古本	大沢台小・羽沢小・七中	12
新刊	大沢台小・羽沢小・七中	14

おおさわ学園では CS 委員会発足当時より、全保護者、児童・生徒に向けて学園アンケートを実施しています。令和２年度に作成した「**おおさわ学園アクションプラン**」に基づき新しいアンケート項目で実施されるようになって４年目となりました。結果を踏まえ、委員会で話し合われた意見を学校と共有し、今後の教育活動に活かして行ければと思っております。

今回の CS だよりでは、児童・生徒と保護者で比較できる６つの質問に関してグラフ化しました。なお、全アンケートの結果や、委員会内で出た意見や考察をより詳しくまとめた完全版はホームページに掲載してありますので、ぜひご覧ください。

学園アンケートを実施しました！

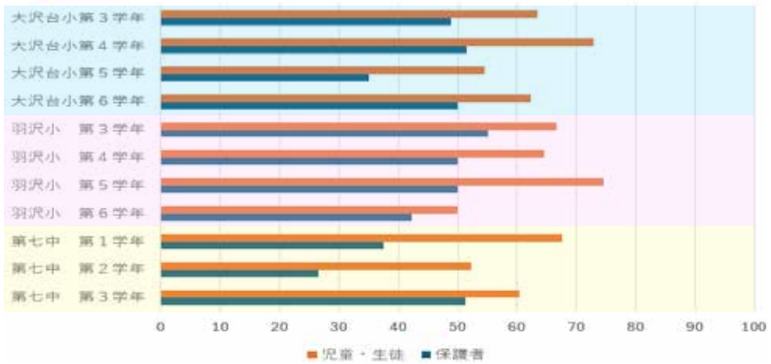
おおさわ学園アクションプランとは

学園のめざす児童・生徒像に照らし合わせ、学校では、家庭では、子どもは、そして地域ではとそれぞれ具体的な姿を当てはめ、それをさらにわかりやすい言葉で表したものです。

学園の目指す児童・生徒像	心身ともにたくましい人	心豊かで共に生きる人	学び続ける人
三鷹「学びのスタンダード」	生活リズムを整える	人との関わりを豊かにする	学ぶ姿勢をつくる
おおさわ「学びのスタンダード」	時間を大切に	言葉を大切に	『なぜ』を大切に
学校	教員の働き方改革	読み取る力、読み解く力、文章を書く力	地域環境を活用した体験学習から知識興味を広げる
子ども	自分の時間を大切に	気持ちを言葉で表現する	わからないことをそのままにしない
家庭	成長段階に応じた環境づくり	言葉でのコミュニケーション	学習したことを生活で活かす環境づくり
地域	チャレンジの場を作り体験を成長に	共に生きていることの喜びを実感できる場	継続して学べる環境づくり

読書

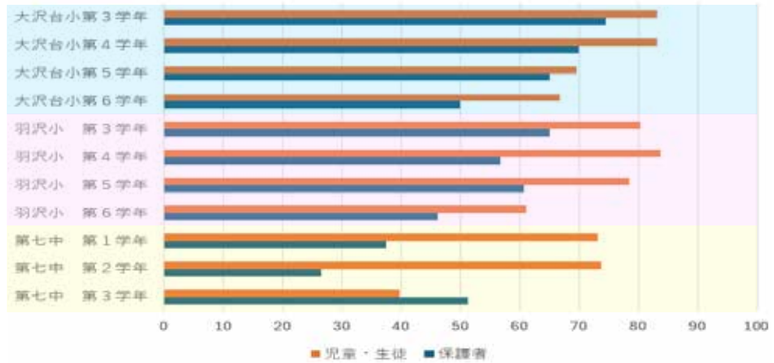
児童・生徒「読書をしていますか」
保護者「お子さんは読書をしていますか」



・朝読書、読書指導の充実等で昨年度よりも児童・生徒の肯定的な割合は高くなった。
・小学校では、各学級に学級文庫を設置し、朝読書などに活用されている。
・学校での読書の様子を、家庭であまり話題にしないため、保護者の数値が低いのかもしれない。
・一般的な統計では、月当たりの読書数は中学生２冊、高校生 0.5 冊となっている。

体力

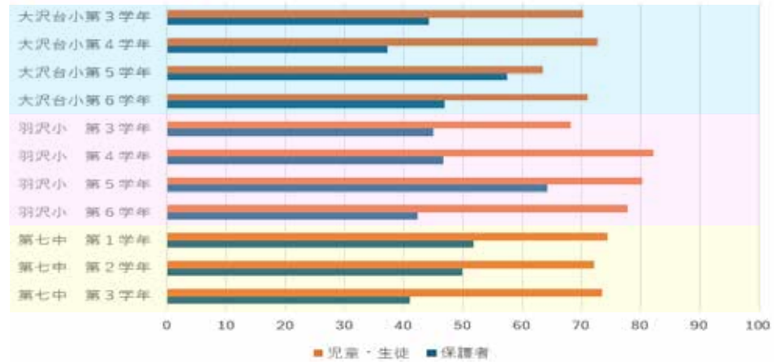
児童・生徒「体力づくりや運動を行っていますか」
保護者「お子さんは体力づくりや運動を行っていますか」



・小学生の野球やサッカー等のクラブチーム、中学生の運動部に入っている児童・生徒には、体力づくり・運動への意識がある。
・小学生は朝開放が始まったが、遊びの感覚で運動や体力づくりという意識は薄いかもしれない。
・体力を付けて何をしたいかの意識付けをすれば、生涯スポーツにつながる可能性も。

整理整頓

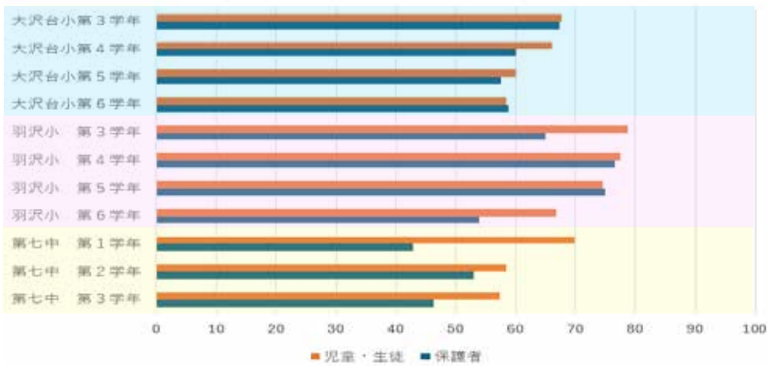
児童・生徒「自分の物の管理ができていますか」
保護者「お子さんは自分の物の管理ができていますか」



・整理整頓について、児童・生徒と保護者では認識に違いがあるのでは？例えば、部屋の隅にズボンをたたんで置いておくのは、子どもにとっては整理整頓、保護者には置きっぱなしにしていると感じる、等。
・家庭に持ち帰り充電する必要のある、学習用タブレット端末の充電忘れが多い。
・持ち物に自分で名前を書くと、自分の持ち物と自覚し、なくしものが減るかも。

お手伝い

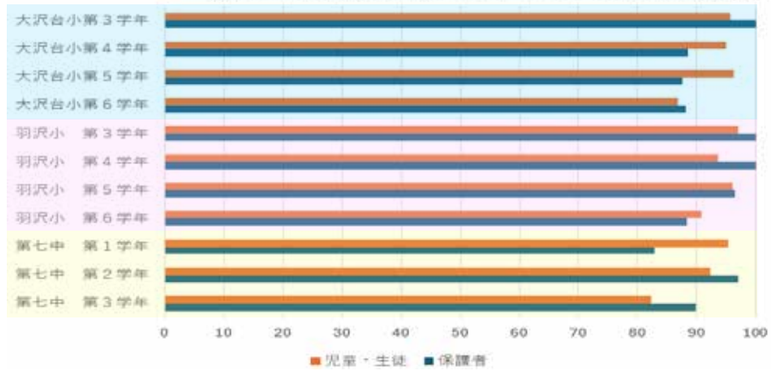
児童・生徒「家でお手伝いをしていますか」
保護者「お子さんは家庭での役割を意識し、お手伝いをしていますか」



・各々「お手伝い」の認識に差がありそう。お手伝いの意識なく携わっている可能性もある。
・洗濯物を干す・たたむ、ごみ捨て、戸締まり、お風呂掃除、靴並べ、食器を下げる・洗う、料理作り等、日常の生活の中で一緒に仕事をすると自然と身に付いていく。
・小５の家庭科では、「家族の一員として自分の役割を果たす」という学習もある。

コミュニケーション

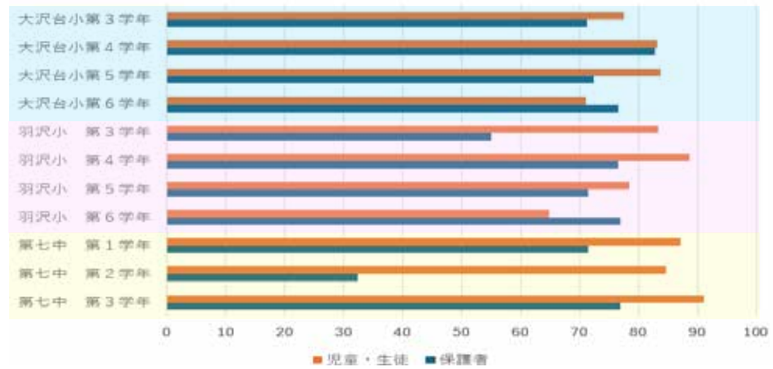
児童・生徒「家でおうちの方と話していますか」
保護者「御家庭でお子さんとコミュニケーションがとれていますか」



・児童・生徒、保護者共に数値がとても高い。しかし、逆に少数だがコミュニケーションがよくとれていない児童・生徒、保護者がいることにも注目する必要がある。保護者からのＳＯＳも聞けるとよい。
・どこまでがコミュニケーションと言えるのか、習い事・塾や仕事の関係で、顔を合わせる時間が短く、ＳＮＳ等でのやりとりをしている家庭もあるかもしれない。

学校の対応

児童・生徒「学校はあなたの悩みや問題に丁寧に対応してくれますか」
保護者「学校は子どもたちの悩みや問題に丁寧に対応していますか」



・学校にはＳＣ（スクールカウンセラー）なども含まれているのか。ＳＣには、とても時間をかけて話を聞いてもらっている。
・両小学校とも６年生は数値が低い。中学１年になると高い。
・保護者の数値が低いところは、学校としても思い当たる点がある。今後も児童・生徒の悩みや問題の一つひとつに向き合い、丁寧に対応してきたい。

「文学するおおさぽ」

～小説に描かれた大沢周辺の風景～

地域学校協働活動を推進する団体
『おおさぽ』キックオフイベントが開催されました！

1 月 20 日(土)羽沢小学校図書館にて、「文学する中央線沿線」の作者、矢野勝巳氏を招き、小説に描かれた大沢周辺の風景についての講演会と「おおさぽ」の活動を紹介する懇親会を開催しました。おおさわ学園 CS 委員会では「家庭・地域ぐるみで読書をする環境づくり、古本リサイクル活動」を行ってきましたが、その一環で今回は大人向けの文学講座となりました。芥川賞作家であり、元 CS 委員の奥泉光氏も会場にいらっしゃり、文学談議に盛り上がりました。

保護者、地域の方に交じり、地域家庭文庫の方や、学園内外の学校司書、学園の教職員、元 CS 委員、CS 委員など 40 名程が参加し、懇談会では、自身の学校とのかかわりや子どもたちへの思い、「おおさぽ」に期待することなどを伺う機会となりました。

●「組織とコミュニティ」～子どもたちは、『財産』である～●

CS 委員会　研修報告

嘉悦大学副学長　木幡　敬史先生による講演

２月１５日（木）のおおさわ学園コミュニティ・スクール委員会では嘉悦大学副学長　木幡　敬史先生をお迎えして、「コミュニティ・スクールとは」「コモンズ（共有地）とは」というテーマで御講演いただきました。

先生のお話の中で一番印象に残ったのは、「いいね！と互酬性」（意味：贈り物にまつわる人間相互のやり取り)」のお話でした。SNS で言えば、「相手に対する期待（いいね！)。」「そのいいね！をした人は、そのお返しがほしい・・・。」この言葉を、コミュニティ・スクール委員会に当てはめると、「我々へのお返しは、子どもの成長である。」ということです。「みんなでつくっているこの『大沢の地』は、子どもを成長させていく地であり、子どもたちは『財産』である。そして、この『大沢の地・コモンズ（共有地)』で、どうすればよりよく子どもたちが育っていくかを、このコミュニティ・スクール委員会で考えていきましょう。」とお話は結びを迎えました。木幡先生のいつも変わらぬ軽快なトークは、おおさわ学園コミュニティ・スクール委員会に、今回もあたたかな春の風を運んでいただきました。